



決算の秋、予算の冬。
現場の声を、次の政策へ。



平成9年6月3日生

元玉木雄一郎秘書

泳げる 魚捌ける

典型的なB型

ENFP-A(よく変わる)

猫2匹・犬1匹と生活

異常に美容に詳しい(コスバ大事)

鹿児島県鹿屋市 出身

元メディアプランナー

元雑誌編集部員

手先が器用 飽き性

お酒飲まない

異常に喋る

異常に運動神経が悪い

葛飾区議会議員選挙で

国民民主党公認の2名が当選しました!

中村けいこ・鈴木たつしの2名が当選しました。国・都・区の連携で「対決より解決」を掲げ、現役世代に寄り添った政策実現を目指します。



中村けいこ



鈴木たつし

11月の東京都議会

- ・ 10月から続いていた 決算特別委員会が開催され、令和6年度の予算執行状況が各局ごとに審査された。
- ・ 各常任委員会も並行して開催
各局宛ての事務事業質疑が行われた。
- ・ 決算委員会の総括質疑・意見開陳が行われ、今年度事業の成果と課題が整理され、来年度予算への改善点が示された。



はなまる 都政報告



10月末から11月にかけて、厚生委員会では福祉局・保健医療局の事務事業質疑が行われました。私は委員として、現場からの声やこれまでの議論を踏まえ、制度のすき間を埋める観点から質疑に立ちました。

福祉局に対しては「18歳の壁」の解消に向け、党が厚労大臣・文科大臣に申し入れた内容と照らし合わせながら自治体アンケートの結果と今後の方針を確認。あわせて、所得制限の撤廃をはじめ、子どもを対象にした施策は親の所得ではなく子どもの状態に寄り添う仕組みとして再構築すべきと求めました。

また、障害・介護・保育などケア領域に共通する慢性的な人材不足について、離職要因の整理と現場に根ざした対策の必要性を指摘しました。SNS企画「#なにゆえ私が福祉職」の広がりにも触れ、魅力発信や分野横断の取組強化を求めました。

保健医療局には、都立病院の人件費率が高いことは行政的医療を担う施設として必然である一方、その固定費を十分に活かすための経営改善や病床稼働の向上が不可欠である点を確認しました。あわせて、未受診妊婦の受け入れと支援体制、内密出産をめぐる国の議論と都の姿勢について問い、生まれてくるすべての命を守るために、東京都として主体的な対応の検討を求めました。

また、東京でデフリンピックが開催されました。大会を通じて得られた経験や環境整備次世代へ確実に引き継いでいくことが求められています。



怒禱の秋

毎日毎日忙しいと繰り返し、身い共に荒れかまっていた日々が一段落。そこを超えに11月は成長の1か月でした。

10月から続いていた決算特別委員会。年に1度の事務事業質疑を終えてようやく、様々なHOW TOや不思議な慣習など掴むことが出来ました。

私は UIFワークとして「若者の福祉」、「予防的福祉」の考え方を都政に取り入れたいと考えています。

現状の「福祉」の対象者は、主に、障がい者、高齢者、そして子ども。いわゆる「社会的弱者」の当事者な訳ですが、孤独・孤立が深刻化する現代において「今当事者じゃないけど生きることにしんどさを抱える人」を助ける施策があって良いのではないかと、そしてそれを予防医療のような考え方で予防福祉として整備することが、結果的に福祉予算を縮小させることに繋がるのではないかと、などなど考えながら関係各局に話を聞いています。

現役世代や若者が報われる東京を、多角的に整備していきたいと思っています。

ここまで全く写真に触れていますが秋の練馬は収穫シーズン産都市農業の街ならではのイベント

も盛りだくさんで週末の地元活動が楽しみです。

バタバタの中、12月スタート第4定例会もかんばりま〜！
12月19日の都議会見学へのしだいな〜☺



TOGIKAI

東京都議会議員(練馬区選出)

山口花

